



鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「寛容の心を持ちなさい」

聖書(エフェソ書4章2節)

牧師 河合裕志

「寛容」について国語辞典などにはこう説明されている。「①心が広く、人のあやまちを許す。②人の言うことを、広い心で聞き入れる。③ゆったりとしてこせこせしない」。なかなか良い意味が並んでいる。私たちも普段こんな心を持って歩むことが出来れば幸いというもの。

聖書でもそんな意味か。上記の①で言われていることが多いかもしれない。「人のあやまちを許す」、これはイエスの教えの中でもきわ立っている。イエスは「七回どころか七の七十倍までも赦しなさい」などと言っている(マタイ18章22節)。

これは弟子のペトロがイエスに次の質問をした時のイエスの答え。「兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか」。人間、七回だってとても赦せるものではない。それをイエスは七十倍までも、と輪を掛けるようなことを言う。これはもう制限をもうけないで限りなくと言うことだろう。これは寛容の極みと言う他はない。

しかし実際問題、人はそんな寛容さを身につけることが出来るのか。これはとても不可能な相談。そこには背景というものがありそう。イエスによれば、神はあなたの莫大な借金(罪)を赦してくれているよ、ということ。これがバックにある。人の借金(罪)は日々うずたかく

神の前に積み上げられている。悪い思い・言葉・行いの数々が。これをしかし人が神の前に悔い改め赦しを願うなら神は赦しを与えてくれる。その位、あなたの方の天の父(神)は憐み深い方だ、とイエスは教えた。こうした神に赦された者としてあなたも人の罪・過ちを赦してやるように、とイエスは言う。

もしこんな心が持てれば世の中に争い事は起らないのでは? 夫婦げんか、親子の争い、友人・同僚とのいさかい、といったものはなくなってしまう。何度でも赦してもらえるのだから。悪い人はしたい放題ということになるかも。

何度でも赦す、神にすでに大きく赦されている者として、寛容な心を持って生きる。これは私たちの願い。この祈り心を持って日々を生きたい。この思いと並行して悪を働く相手に対してこれを問いただす、忠告する、これは許されることでは? そしてもし相手が悪を悔いて来たならば赦してあげる。可能な限り。これが実に容易でないところ。絶縁・絶交に至ることもある。神に人を赦す力を乞う他はない。

集会案内

日曜礼拝: 午前10時15分、日曜夕拝: 午後6時

子どもの教会: 日曜日午前9時

中高青年会: 日曜日礼拝後

聖書を学び折る会: 水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談): 水曜日午後1時~7時